



THE SUGGESTION

提 言

中小企業組合総合研究所機関紙

8月1日

第211号(2023年)

提言・約束事

1. 基本的には読者参加型の提言新聞とします。併せてニュース解説や話題を提供します。
2. 投稿の場合、社会規範に反するものは受け付けません。原稿掲載はスペース等の関係もあり編集者の判断にお任せ下さい。

発行所

一般社団法人 中小企業組合総合研究所

〒533-0032 大阪市東淀川区淡路3-6-31 協同会館アソシエ2F

電話 06-6328-5577 FAX 06-6328-5588

URL <http://www.kumiaisouken.com/>

戦争は最大の人権侵害

敗戦から78年 惨禍を繰り返さぬために

8月15日、78年目の「敗戦の日」を迎える。太平洋戦争による犠牲者は日本だけでも、軍人・民間人を合わせて320万人にもおよぶ。そして原爆投下による後遺症に悩まされる人は今も数多くいる。78年前のあの日、日本人は平和の尊厳と二度と戦争をしない事を誓ったはずだ。岸田首相は昨年末、2023年度からの5年間の防衛費の総額を43兆円とするように発表した。日本では地震や台風、集中豪雨など自然災害の方が多いいのにもかかわらず、その対策ではなく、なぜ軍拡に舵を切ったのか。

減る戦争体験者

現在、戦後生まれの割合は日本の総人口の86%になっている。そして実際に戦地に赴いた経験のある明治・大正生まれの世代に至っては、人口の0.5%に過ぎず、戦争体験を持たない人の割合が圧倒的多数となっている。さらには戦争の時代を経験し

ていない戦後生まれの政治家の割合は実に98%に上っており、中には平成生まれの議員すらいる。

戦後、戦争体験を持つ政治家たちが政治を担ったことの意味は大きい。戦後日本が「平和主義」を歩み、保守である自民党でさえ、憲法改正を大



我々が敗戦から学んだことは何か

争というものを抽象的にしか捉えられず、ある種のゲームのようにしか捉えられない、そういう人たちが増えている。それ故、戦争を経験していない世代の中から、日本の戦争を肯定するような議論が出てくるのだろうか。

かつて、戦争を語る時には、体験に基づいた嫌悪感や具体的な場面というものを持ちついでいたが、今やそれを話せる人がいない。だから、戦争体験という共通の体験がなくな

歴史修正を許さない

日本の一部メディアなどから「慰安婦はいなかった」や「徴用工問題は解決済み」など歴史を改ざんしようとする動きがある。

「歴史修正主義」とは、侵略戦争や植民地支配、軍隊等による組織的残虐行為など、今では批判的な評価が定着している

事実について評価を逆転させて支持・擁護する主張をさす。このように侵略戦争や組織的残虐行為への批判的評価を「修正」しようとする動きは、日本だけの現象ではない。

ドイツでも、極右勢力から「アウシュビッツは嘘」といった議論がくりかえし叫ばれてきた。イタリアでも、第二次世界大戦下の反ファシズムのレジスタンス闘争の意義を否定する発言も相次いでいる。しかし、こうした主張を公然と唱えてきた勢力が政権に参加した例は、時期のオーストリアなどを除き欧米ではほとんどない。

恒久平和のために

作家の辺見じゅん氏は著書の『戦場から届いた遺書』の中で「誰も戦争には反対のはずである。だが、戦争は起きる。現に

今も世界のあちこちで起こっている。日本もまた戦争という魔物に呑み込まれないともかきらない。そのときは必ず、戦争を合理化する人間がまず現

れる。それが大きな渦となったとき、もはや抗う術はなくなってしまう」と記している。

ドイツ連邦共和国(西ドイツ)のリヒャルト・フォン・ヴァイツェッカー大統領は、1985年、ドイツ

平和記念公園とパールハーバーが姉妹協定締結

「平和と和解」の架け橋に?

広島市は6月22日、同市にある平和記念公園とアメリカ・ハワイ州のパールハーバー国立記念公園が「姉妹公園」の協定を締結することを発表し、同月29日、東京・港区のアメリカ大使館で広島市の松井市長とアメリカのエマニュエル駐日大使が参加し協定書を取り交わした。



協定書に調印するエマニュエル大使(左)と松井広島市長

日、協定を保留するよう広島市に申し入れを行なった。

要請書では、真珠湾攻撃や広島への原爆投下について「許し合うべきものではなく、二度と繰り返してはならない歴史的教訓である」「両公園の提携

を通じて、原爆投下が戦争を終わらせたという誤った歴史認識を上書きするものであり、断じて容認できない」としたうえで、姉妹公園の協定によ

うて何ができるのかが漠然としているとしている。要請書を提出した広島県(広島県被団協)の佐久間邦彦理事長は「議論を

す」と述べている。戦争になると、軍事費(税金)や命(徴兵)を差し出すのは、多くの一般市民であるという事を心にとめて、今こそ戦争を止めるために声を上げるべきでないだろうか。

早急にするべきか理解できない」と話している。

日本軍による真珠湾攻撃と、米軍による広島への原爆投下が、同「線上」で語られている事には違和感を覚える。広島市は今回の締結について「戦争の始まりと終焉に関係する両公園の提携は、過去の悲しみを耐えて憎しみを乗り越え、未来志向で平和と和解の架け橋の役割を果たす」としているがや

やもすれば、真珠湾が戦争の始まりでその帰結が広島への原爆投下だとすれば、原爆を落とされたのは因果応報で、正しかったとされかねない。「原爆投下が終戦を早めた」と

いうアメリカの言いぶんには被爆地がお墨付きを与えたかのようにも見える。被爆者たちは原爆投下を決して許したわけではない。未来志向というなら、戦争や原爆投下の責任の所在や、歴史認識の問題から目を逸らさず、

日本とアメリカだけでなく、先の大戦での自らの加害責任にも向き合う覚悟が要るのではないだろうか。(提言編集部)

四季折々

八月の砲声

バラタックマン著の「八月の砲声」という本がある。1962年に刊行された同書には、誰もが望んでいなかったのに、拙劣な外交と、軽率な判断ミスから、第二次世界大戦へとなだれ込んでいく様子が克明に記されている。

1962年に起こった「キューバ危機」では、世界は核戦争の二歩手前まで突き進んでいた。ソ連によるキューバへの核ミサイル持ち込みが、アメリカの安全を脅かすことから、ケネディ大統領は、海上封鎖を行ないミサイル配備を防ごうとした。ケネディは、独裁者に対しては強い態度を示す必要を感じていたが、強硬姿勢を貫くことで核戦争になる危険性があることも理解していた。

その頃ケネディは、刊行された間のない「八月の砲声」を読み、誤解と相互不信、そして無責任によつて戦争へと突き進む姿を見て恐怖を感じた。同書は、責任ある指導者が勇気をもつて対話をすることで、戦争を回避できる可能性を示唆していた。そしてケネディは、フルシチョフ首相と連絡を取り合い、核戦争を回避するための重要な合意に到達したのだ。

いま「台湾有事」を理由にして南西諸島の軍事化が進められている。これら軍拡路線は周辺諸国の緊張を不必要に高めるだけで、偶発的な事故から意図せぬ戦争へと発展する懸念も捨てきれない。いまこそ勇気を出して、軍備ではなく、対話による平和外交が必要だ。(H)

ミサイルよりも外交を 第14期沖縄意見広告運動 報告集会

沖縄意見広告運動は6月11日、日本教育会館(東京都千代田区)で「第14期沖縄意見広告運動報告集会」を開催した。コロナウイルスの感染拡大を受け、2020年、2021年とオンラインでの報告集会となっていたが、昨年から対面での報告集会が再開。今年は南西諸島への基地強化の動きがある中での報告集会ということもあり、多くの参加者が集まった。集会の様子は動画共有サービスYouTubeでの同時配信も行われた(現在も視聴可)。

沖縄意見広告運動 事務局長 生田あい

沖縄意見広告運動は、は全国から1万5332件(5月25日締め切り時点)の賛同を得て、6月4日付の「沖縄タイムス」と「琉球新報」の沖縄2紙、および「東京新聞」「南日本新聞」の各朝刊に掲載を行なっており、今年



別の根拠にある日米地位協定や日米安保の見直し」という3つの中身を入れていきます。

紙面にある、装甲車と子供を抱えたお母さんたちが不安そうに立っているこの写真は、昨年11月17日、与那国島での訓練の時の写真です。普通に暮らしている街の道路で、島を軍事拠点化し、ミサイルの拠点化にする訓練は現実です。与那国だけではなく、石垣でも馬毛島でも、こういう事態が起こっています。

今回の広告掲載紙を戦略的にこれまでは変えました。一つは、米軍基地や自衛隊基地が増強されようとしている首都圏をカバーする「東京新聞」に掲載しました。それから南西諸島を戦場にする軍事戦略に対抗して、鹿児島を中心とするエリアの「南日本新聞」に初めて掲載しました。そして、いつものように沖縄から与那国までの南西全体をフォローしている「琉球新報」と「沖縄タイムス」の2紙に掲載しました。

紙面構成のメインは「ミサイルよりも外交を」、そして「沖縄を、島々を戦場にするな!」という事です。それからこの運動を始めた15年前から続けている「普天間の基地の即時閉鎖」「辺野古新基地建設断念」、そして3つ目は、「沖縄に軍事基地を強制している構造的差

有事でも米軍は日本を守らない 参議院議員 伊波洋一



「国家安全保障戦略」それから「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」の3つです。「防衛力整備計画」では、いつまでに何を作るという事が明確になっています。基本的には2027年ごろに戦争があると

「安保3文書」のポイントですが、一つは基地攻撃能力のあるミサイルを全国に展開するという事です。例えば「台湾有事」で言うならば、台湾に向けて中国の艦船が出て行く時に撃つためのミサイルとして準備されているものなのです。実は中国のミサイル網は大変強力で、アメリカは日本列島の近くまで来る事ができま

「危機」は自作自演
「安保3文書」というのは「台湾有事」というのが日本では、「台湾有事」は大きな脅威だ。だから敵基地攻撃能力を持つミサイルを持たなきゃいけない」とマスコミも含めて、事実を検証しないで脅威だけを煽り、そして安倍政権下で本

「逃げた米軍」
現在、日本には米軍が5万人駐留していますが、これが「抑止力の維持に繋がっている」という事を政府は常々言っています。しかし、もし有事が起きた場合はどうするかという話ですが、その時には存立危機事態を認定して、長射程ミサイルで中国の艦船、あるいは中国国内の航空基地、ミサイル基地などを攻撃する事が今回の安保3文書の中には含まれています。

「負担軽減」というまやか
基地・軍隊を許さない行動する女たちの会
共同代表 高里鈴代
を出したという事に、日米両政府は「安保が揺さぶられるのではない」と感じたというのです。そして慌てて、沖縄に関する特別行動委員会、SACO合意というのを発表しました。その中身が「沖縄の負担軽減」、つまり沖縄に負担をかけてきたという事は自覚したわけですが、でも中味は日米同盟関係の強化でした。



沖縄の辺野古の問題がなぜ始まったかという事です。1995年に12歳の少女が3人の米兵にレイプされたという事件がありました。それに対して「もうこれ以上許す事は出来ない」と8万5000人が集まった県民集会がありました。これまでもいろいろと怒ってきたんです。でも、このように県民が集まり怒りの声を

コンクリート工学年次大会2023(九州)

コンクリートテクノプラザグリーンセンター10回目の出展

公益社団法人日本コンクリート工学会(JCI)主催のコンクリート工学年次大会2023(九州)は「人をつなぐ未来をつなぐコンクリート」をメインテーマに、7月5〜7日の3日間、福岡国際会議場(福岡県福岡市)で開催された。一般社団法人グリーンコンクリート研究センター(グリーンセンター)は、コンクリートテクノプラザ現地開催10回目の出展を果たした。

コンクリート工学年次大会は、毎年1回(3日間)で開催され、多分野のコンクリートの研究者や技術者が全国から集まり、研究成果の報告と質疑応答などを通して活発な情報交換を行なっている。その中の「コンクリートテクノプラザ2023」では、63企業・大学ほかが出展し、各ブースで関連技術の展示・解説を3日間行なった。

同期間中、別階の会場では「第45回コンクリート工学会講演会(論文・報告約460件)」や「キング・オブ・コンクリート(九州各地の伝統芸能『独楽』にちなみ、セメントなどを用いてコマを作成し、回転速度、デザインを競うコンテスト)」が行なわれたほか、5日には「第3回コンクリート構造物診断セミナー」や「第30回生コンセミナー」が、6日には東大



教授の石田哲也氏による「コンクリート工学におけるDX」の特別講演会が行なわれた。また6日の夜には人数制限をした懇親会が開かれ、JCI関係者、出展者、発表者、学生を含む一般来場者などが一堂に会し、九州の名物「当地グルメ」を堪能しながら様々な分野の方々と交流が行なわれた。

2020(広島)大会は新型コロナウイルス感染症拡大のため現地開催が中止となり、2021(名古屋)大会、2022(千葉)大会はオンライン開催で、今年4年ぶりの現地開催となった。3日間とも雨の予報に加え、今年初めて来場者の事前参加登録が必要だったにもかかわらず、年次大会来場者数は3日間で延べ5443名、テクノプラザの来場者数は3日間で延べ4099名(7月10日時点発表)と例年よりは少ないものの、思った以上の来場者数だった。

グリーンセンターブース



グリーンセンターのブースには次々に見学者が

の準備段階で発注していたレンタル機が届いておらず、レンタル会社が調べた結果、向かいのブース担当者が近くにあったからと勝手に使用していたというアクシデントから始まったが、開催後は大学教授、セメントメーカー、生コン会社、ゼネコン、環境系などの準備段階で発注していたレンタル機が届いておらず、レンタル会社が調べた結果、向かいのブース担当者が近くにあったからと勝手に使用していたというアクシデントから始まったが、開催後は大学教授、セメントメーカー、生コン会社、ゼネコン、環境系な

2011年から出展のグリーンセンター

グリーンセンターは2011年、当時のスーパードバイザーで京都大学名誉教授、JCI名誉会員でもあった故小野紘一先生の提案で、大阪で開催されることもあり初めての出展を行ない、その後2019年まで広島、名古屋、高松、千葉、福岡、仙台、神戸、札幌と9年連続で出展を行なっていたが、2020年はコロナ蔓延で大会が中止に、2021年と2022年はオンライン開催となり、3年間は参加を断念していた。今年、現地開催が再開となり、グリーンセンターは10回目の出展を果たした。

ブースでは、これまで当センターの初代スーパードバイザーであった大阪工業大学工学部建築学科講師の故二村誠二先生、二代目の故小野紘一先生、技術顧問の近畿大学元教授の故玉井元治先生が行なつてこられた研究や、当センターでの事業を紹介してきた。初出展の大阪大会では、二村先生が研究されていた「浮くコンクリート」や「曲がるコンクリート」などを展示して人目を惹き、翌年以降は二村先生が日本建築学会との共催事業を実現させた「コンクリートと木のコラボレーション」による持続可能な住まいと地域住環境の設計」の設計競技を2011年から3年間行なつた内容の紹介、小野先生提案の事業



コンクリートと木のコラボ(2010年)



浮くコンクリート

である2011年から2年間行なつた「産学連携研究発表会(大学・高専の教授の研究支援を兼ねる)」の紹介や「小学生コンクリート教室」地域貢献を兼ねる」の紹介、ポラスコンクリート研究の権威といわれた玉井先生の講演内容の紹介に加え、ポラスコンクリートの特性(透水性、保水性、揚水性等)を理解していただくために独自で制作したポラスコンの植木鉢で栽培したものや、藻場形成をイメージしたポラスコンに水草を活着させたもの、浮島をイメージした浮くポラスコンを展示紹介して関心を引き、環境にやさしいインフラ整備に繋がることを提案してきた。

JCIコンクリートテクノプラザに出展を続ける中で認知度アップにつながり、営利目的でなく、出展していることにお褒めの言葉をいただくなら、2009年の開所以来行なつてきたグリーンセンター事業を紹介し、事業ほかで関わった方々との再開も果たせ、他分野の方々の交流も図れたことは意義のあることだったと思う。今回の10回出展参加を節目として、これまで参加できたこと、毎

テクノプラザ出展で認知度アップ



ポラスコンクリートの植木鉢

回出展されている担当の方々との交流や情報交換他、ブース紹介内容や各方面の来場者との対話の中で知識が増えたことなどに感謝しつつ、今回をもつて出展参加にひとまず区切りをつけることとする。

今大会には、グリーンセンター・松浦理事、坂井、協同会館アソシエ池田の3名が参加。

完成した手型に好きな文字を刻む。小学生コンクリート教室(2011年)

地域アソシエーションの芽(52)

京都大学名誉教授
国際経済労働研究所所長

本 山 美 彦

株価資本主義を克服する途(22)

代表的なプラットホーム

協同組合の3例

ニューヨークのブルックリンにあるパーク・スロープを拠点に全米で展開する食品販売協同組合「P S F C」をまず紹介しよう。

創立は1973年。2021年時点での組合員は約1万7千人。誰でも組合員になれる。組合員は、食料品を市場価格より20〜40%も安い価格でP S F Cの店で購入できる。



ニューヨークのブルックリンにあるパーク・スロープ

ードによる輸入食品、化学薬品を使用しない自然な農・水産物、等々を地元民に提供するという高い理念を掲げている。

P S F Cには、ボイコット運動に携わった長い経験がある。アパルトヘイト体制下の南アフリカ連邦からの商品をボイコットした。ピノチット(Pinochet, 1915〜2006年)政権下のチリのワインも禁止した。「ネスレ」(Nestle)が、母乳育児をしなくてすむ乳児用調製粉乳を宣伝していた時には、同社の製品もボイコットした。

2008年以降、P S F Cの小売店では、缶入りの飲料水の販売を中止した。レジ袋の提供も停止した。プラスチック袋も回収している。ヨーグルトの容器を集めて、歯ブラシなどを作るといったリサイクル事業も始めている。

2018年には、自分たち独自の協同組合を結成しないかと、P S F C以外の食料品店の従業員に呼び掛けた。以後、これらの食料品店と連携して、随意雇用(長期雇用ではない非正規雇用)を廃止している。人種差別など、職場での不平等な扱いにも抗議している。独りよがりを超える工夫もしている。外部からの批判を、隔週発刊の機関紙、『ガゼット』に掲載し、真摯な自己批判も公表している。

自己批判には、建前論ではない実質的な組合員の平等と民主主義を浸透させることの難しさとしみじみを、素直に吐露したものが多く。

次にプラットホーム型協同組合を紹介したい。「アップ・アンド・ゴー」がそれである。アップ・アンド・ゴーは、個人事業主ではあるが、実際には不安定で報酬もかなり低いハウスクリーニングに携わる人々たちを、オンラインで連携させる組合である。この組合もニューヨークに拠点を置いている。

アップ・アンド・ゴーは、ニューヨーク・ブルックリンのサンセット・パークにある「家族生活センター」(CFL)から生まれた。

このセンターは、ブルックリン地区の住民組織であり、さまざまな問題を抱える家族を、支援をしている。ブルックリン地区の住民の半数以上が非白人である。こうした環境もあって、アップ・アンド・

の組合員の多くは、ヒスパニックの女性である。創業者もそうである。

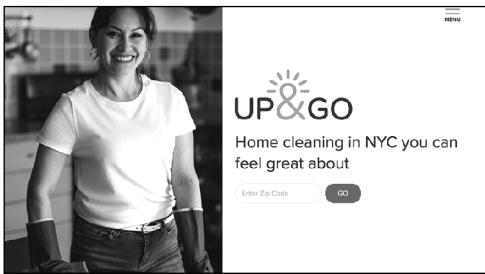
「家族生活センター」は、2006年から地元企業

による協同組合の設立を支援してきた。アップ・アンド・ゴーも、この支援を受けて2017年に誕生した。設立資金は、「ロビンフッド財団」などの出資であった。サービス料金の95%は仕事をした組合員に与えられ、プラットホームの維持に使われるのはわずか5%である。料金は、組合員の合意で決められる。プラットホームは、さまざまな協同組合のメンバーによるアイデア、知識を交換する場でもある。

最後に、ヨーロッパで組織された「スマートコップ」を紹介する。これは、フリーランス(特定の楽団に所属していない)の演奏家たちが組織したプラットホーム協同組合である。組合員は、ベルギー、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ハンガリー、オランダ、スウェーデンの40以上の都市にまたがり、2021年時点で3万5千人いた。

組合が設立される以前の演奏家たちは、出演料の受け取りが滞りがちであった。フリーランサーなので、立場が弱かったからである。

組合が出演料受け取りの窓口を一本化し、支



提言文芸

~投稿歓迎~

・ちよつと待て マイナンバーは誰のため?
(怒りのブドウ球菌)

・武器送り 戦争止めると いう矛盾
(乱痴気おけさ)

「国民の生活の利便性」を目的に導入が進められているマイナンバーカードですが、高圧的な取得政策に、「誰のためのカード?」と疑問が。西側からの武器支援で戦局は泥沼化、戦争終結の見通しも立たず。ここでも国民の犠牲は増えるばかり。いったい国って何?



関西生コン関連
経営者会

関連団体
を支援する会

K U

社会資本政策研究会

〒533-0032 大阪市東淀川区淡路三ー六ー三一
電話 (〇六) 四八六二ー四〇二二
FAX (〇六) 四八六二ー四〇二三

サンセイ生コンクリート株式会社

代表取締役 稲村 義昭

〒651-1412 兵庫県西宮市山崎町下山口六五一一
電話 (〇七八) 九〇四一三六九一
FAX (〇七八) 九〇四一三〇七

「頭脳警察」のPANTA氏死去

映画「棘」「棘2」のエンディング曲を担当

反体制を象徴するバンドとして、日本のロック黎明期から活躍したロックバンド「頭脳警察」のボーカルのPANTA氏(本名：中村治雄)が7月7日死去した。73歳。PANTA氏は全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部(関生支部)前委員長の武建氏の内面を描いた映画「棘」(2019年、杉浦弘子・監督)、「棘2 独白」(2021年、杉浦弘子・監督)のエンディング曲を担当した。



映画&シンポジウム「映画監督と時代」で『さようなら世界夫人よ』を熱唱するPANTA氏(2017年・早稲田大学大隈小講堂)

PANTA氏は、1950年に埼玉県で生まれ、1969年、ドラマーの石塚俊明氏らとロックバンド「頭脳警察」を結成。ベトナム反戦などの学生運動が激化する中、「世界革命戦争宣言」「銃をとれ」など挑発的な楽曲が若者に支持された。歌詞の過激さから、1972年のアルバム第1作は発売中止に、第2作も発売2カ月で回収となり話題を集めた。

1975年の解散後は、ソロ活動や期間限定での復活を経て、頭脳警察の活動を本格的に再開させ

死因は肺癌。埼玉県所沢生まれのPANTA氏は学生時代から真っ白いギター、それも左利きを持ち、数々のステージを熱演。ロック歌手、作曲家、作詞家、俳優、「頭脳警察」のボーカル。それだけではなく、荻野目洋子、沢田研二ら多くのアーティストの作品も手掛けている。また、反戦平和・反原発のアイドルグループ、制服向上委員会のロックミュージカル「ドン・ジョヴァンニ」の音楽監督も。また、労働運動に興味を持っていたPANTA氏は杉浦弘子監督が製作したドキュメンタリー映画「棘」ひとの痛みは己の痛み、武建二。そして「棘2」のエンディング音楽を担当。大いに盛り上げてくれた。二十三年七月七日午前十四時四十分、肺癌による呼吸不全と心不全のため死去。七十三歳没。合掌。武建、杉浦弘子、平林猛。

ありがとう PANTA

映画「棘」監督 杉浦弘子

沢田研二さん、荻野目洋子さんへの楽曲提供やプロデュースも手掛けた。PANTA氏は今年2月に体調不良のため緊急入院したことが伝えられ、翌3月には2度の危篤状態から回復し、ブログや連載などの文筆活動を再開したことが伝えられていた。ここ数年は闘病しながらステージに立ち続けており、6月14日のライブが最後の出演だった。謹んでご冥福をお祈りいたします。

近年は精力的にライブやアルバム制作を続けていた。並行して別バンドやソロでも硬軟織り交ぜた楽曲を発表。石川セリさん、

「頭脳警察」PANTA逝く

映画「棘」プロデューサー 平林猛

肺癌の末期で苦しんでいたがステージ好きのPANTA(本名：中村治雄)は、発熱の中で、ワクチン接種に這うようにして病院に行ったところ「ワクチンどころではない」と叫びながらロックじゃないと言いつつ返したが、それから一ヶ月、帰らぬ人となった。



左からドキュメンタリー作家の森達也氏、PANTA氏、杉浦弘子氏(2017年)

頑張れ尾上部屋

一場所遅れの初土俵 城間が勝利

大相撲七月場所(名古屋場所)愛知・ドルフィンズアリーナでは、先場所優勝の横綱・照ノ富士(伊勢ヶ濱部屋)、大関・貴景勝(常盤山部屋)が休場する中、関脇・豊昇龍(立浪部屋)が千秋楽に12勝3敗で並んだ北勝富士(八角部屋)との優勝決定戦を制して、初優勝を果たしたとともに、大関昇進を手中にした。今場所終盤まで優勝争いに絡み、土俵を盛り上げた新入幕の伯桜鵬や、史上初の大関へのトリプル昇進が期待されながら叶わなかった関脇 大栄翔と若元春らの九月場所での活躍にも期待がかかる。



小山桜(左)を寄り切りで下した城間

城間が二場所遅れの初土俵で勝利

全体で番付外に落ち、名古屋場所が事実上の前相撲デビューとなった。

城間(尾上部屋)が名古屋場所(武秀部屋)と二番取つて初土俵を踏んだ。前相撲が開催されなかった3月の春場所(大阪場所)の新弟子検査に合格し、序ノ口として同期入門の春山とともに5月の夏場所(両国国技館)で初土俵を踏む予定だった。しかし、昨年11月に手術した左膝が治りきらず、直前まで出場を目指したが、大活躍が期待される。

同期の春山は初黒星 惜しくも優勝逃す

前場所を全勝で序ノ口優勝を飾り、今場所は序二段東15枚目として臨んだ春山(城間と同期入門)は、6戦全勝で迎えた13日目(7月21日)、東三段目86枚目で同じく全勝の若碓(伊勢ノ海部屋)に敗れてプロ初黒星。惜しくも序二段優勝を逃した。

七月場所 尾上部屋力士成績

☆印は勝ち越し

番付	四股名	成績
【幕下】		
東28枚目	北天海	☆4勝3敗
【三段目】		
東9枚目	大海	☆4勝3敗
東25枚目	穂高	☆4勝3敗
西72枚目	高馬山	3勝4敗
西76枚目	坂林	2勝5敗
西86枚目	玄武丸	2勝5敗
【序二段】		
東15枚目	春山	☆6勝1敗
西16枚目	照寶	☆4勝3敗
東50枚目	九鬼王	☆4勝3敗
西63枚目	富士の輝	3勝4敗
東73枚目	高倉山	☆6勝1敗
【番付外】		
城間		☆2勝0敗

※九月場所(秋場所)の番付は8月28日に発表

大阪労働学校・アソシエ オンライン講座のお知らせ

大阪労働学校の講座では、中核に位置を占める労働講座が昨年度は諸般の事情で開講できませんでしたが、本年度は木下武男著『労働組合とは何か』をテキストに、著者自らが講師として、2回にわたってオンライン講座を開催します。

第1回 9/9(土)・第2回 10/14(土) 14:00~16:00
申し込み先 roudou.associa@gmail.com
前日までに申し込みください。オンラインスカイプのURLと、受講料のお支払方法をお送りいたします。
受講料：500円(サポーター会員の方は無料)

※テキストの『労働組合とは何か』(岩波新書)は各自で用意いただき、事前に一読いただければ幸いです